

参議院議員 ITO GAKU

伊藤 岳 国会報告

2020年
夏号[国会事務所] 東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館609号室
TEL ☎03-6550-0609 FAX 03-6551-0609[埼玉事務所] さいたま市大宮区北袋町1-171-1 日本共産党埼玉県委員会内
TEL ☎048-658-5551 FAX 048-647-5755

日本共産党

http://ito-gaku.jp
gaku_ito@sangiin.go.jp
LINE 情報を発信しています
LINE登録をお願いします

新型コロナ

現場の願い実現へ奮闘

「埼玉の声、埼玉の願いが届く政治を！」の決意で初めての通常国会を駆け抜けました。本会議、委員会で22回の質問に立ちました。「1年間分の利益が吹っ飛んだ」と話してくれた病院長。この訴えに応える政治が必要だとただしました。医療費削減・自治体リストラのこれまでの政治を続けていいのか。「新自由主義」からの脱却の重要性を「コロナ」は教えています。秋のたたかいに全力をあげます。

埼玉と国会

結んで

参議院本会議で質問する伊藤岳議員(3月11日)

中小事業者に
家賃補助を

「飲食店の女将さんは、生命保険の解約をしまで家賃の支払いにあてている」。中小事業者の実態を示し、「市町村独自の家賃補償事業に国の地方創生臨時交付金が使えるか」と迫りました。「家賃補助も含めて自由度高く使える。今年度事業であればさかのぼって活用できる」と答弁を引き出しました。

「もう持たない」
観光業に
追加の給付を

深刻な影響が出ているホテル・旅館や観光業。いち早く秩父市、寄居町を現地調査。「予約は全てキャンセル」「200万円の給付では追いつかない」——廃業危機の実態を示して追加給付を迫り「雇用維持と事業継続に取り組む」(観光庁)と答えさせました。

秩父の民宿経営者に話を聞く(4月7日)

経営苦しむ
医療機関へ
減収補てんを

受診抑制で病院全体が減収となり、職員にボーナスも出せなくなっている病院経営。厚労副大臣は「ボーナスが出ないということがあってはならない」と述べましたが、減収補てんには言及せず。伊藤岳議員は「従来の枠組みを超え、減収補てんに踏み出すべきだ」と医療機関への支援を求めました。

病院を訪問し、深刻な実態を聞く(5月23日)



後援会と連携プレーで バス事業者の窮状、 国会へ

寄居町の党川南後援会は新型コロナの影響を調べようと4月、地域のバス事業者を訪ねました。仕事も収入も減って大変という社長に、後援会は伊藤岳議員を紹介。その4日後に伊藤岳議員の視察が実現しました。

見込んでいた五輪・パラリンピック需要がなくなり、通常業務もキャンセル続きだと窮状を語る社長。伊藤岳議員はさっそく国会で実態を取り上げ、「バス事業者を守り抜け」と政府に迫りました。質問を見た社長は「私たちのそのままの気持ちを届けてくれた」と話しました。後援会は「国会議員が身近になり、国会との橋渡しができた」と喜んでます。



バス会社で話を聞く。田母神節子、大澤博の両寄居町議も同席(4月7日)

安倍総理と初対決!

安倍総理に初質問する機会がめぐってきました。

3月19日の委員会質疑では、コロナで減収した中小企業向け「無利子・無担保融資」について返済猶予や特例的補助金など「あらゆる手立てを講じるべきだ」と迫りました。「返済免除特約付き緊急小口資金」は「生活が安定するまで弾力的運用を」と求めました。総理は「きめ細やかに実施する」と答えました。



参議院総務委員会で、安倍晋三首相(後ろ向き左)に直接質問する伊藤岳議員(3月19日)

国会審議でも野党共闘をひっぱり

かんぽ生命の不正販売事件を特集したNHKの番組に対し、NHK経営委員会が日本郵政グループの圧力に屈して上田NHK会長(当時)に嚴重注意をするという重大問題が明らかに。野党同僚議員の質問に、森下経営委員長は、上田前会長が「(圧力を受けて嚴重注意をすれば)

NHKとしては本当に存亡の危機に立たされる」と発言した事実を認めました。伊藤岳議員は、準備した質問をすかさず変えて、「なぜ、議論のど真ん中の会長発言が、経営委員会の議事経過や公表資料で出されないのか、隠ぺいではないか」と追及。野党のリレー追及が光りました。

総選挙に 向かって

共闘と党躍進で 安倍政権を終わらせよう 北関東ブロックで 複数議席獲得に全力



衆議院議員 塩川鉄也

伊藤岳参議院議員の当選は、みなさんの願いを国会に届ける大きな力となりました。今度は総選挙。梅村さえこ前衆議院議員とともに頑張ります。比例は日本共産党へ。

「なぜ国民の命と暮らしを守ることが優先されないのか」「効率性だけを追い求める社会でいいのか」

コロナ危機を通して、いま、政治や社会のあり方を問う声が大きく広がり、新しい社会への模索が始まっています。

「無駄なものをはぶく」との論理で徹底的に医療や福祉、雇用など切り縮めてきた新自由主義的な自民党

政治を退場させる絶好の機会が、「今秋にも」と言われる衆議院解散・総選挙です。この総選挙で、市民と野党の共闘によって、新自由主義からの転換をはかります。

野党共闘の勝利と日本共産党の躍進で、新しい希望ある政治を一緒に作りましょう。日本共産党は衆議院比例北関東ブロックでの複数議席獲得に向けて全力をあげる決意です。

通常国会閉会日、浦和駅西口で訴える(左から)梅村さえこ、伊藤岳、塩川鉄也の各氏(6月17日)

